

令和8年度大川市水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

筑後平野のほぼ中央部に位置する本市は、南に有明海を臨み、北に背振山系を有し、市域の大半が筑後川左岸に広がっている。また矢部川を源流とする花宗川が市の中央部を流れ筑後川に注いでいる。市の全域は、山や丘陵が全くない標高3～4mの平坦な沖積地で、水田が多くクレーク網が縦横に走り、この地方特有の景観を作り出している。また、本市は有明海沿岸の低平地に位置することから、西九州内陸型の有明海型気候区に属し、全般的に温暖多雨である。標高が低いために北西風の季節風が強く、降水量は、冬期における降雨量が少ないため、夏多雨の太平洋型分布を示している。

水田面積は、約1,320haで、米、麦、大豆等土地利用型農業を主体に、いちご、アスパラガス、青ねぎ、花き等を中心とした施設園芸及び特産作物であるい草の生産が行われているが、生産者の高齢化、兼業化が進んでいることなどにより、農家戸数の減少がみられるほか、麦・大豆における課題は、雑草、連作障害等による単収低下、気象条件による変動が大きいことである。今後は、スマート農業機械の導入等の取り組みを通して、収益力の向上を目指すとともに、農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保が急務となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市では、主食用米からの転換作物として「麦・大豆」については、安定収量の確保、品質向上を図り、作付拡大を行うため、昨年度末に策定した地域計画を活用し、地域の担い手への農地集積を進めている。

また、福岡大城農業協同組合が作付拡大品目として位置づけている、いちごやアスパラガス、青ねぎなどの野菜については、福岡大城農業協同組合等と連携し、さらなる面積の拡大を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田の有効活用として、裏作も含めた通年での露地野菜等の生産振興など、地域における効率的な土地利用に配慮しながら、高収益作物の定着を図っている。毎年提出される営農計画書をもとに作付予定等、生産者の意向を整理・把握した上で、水田の作付状況の現地確認を行っている。同時に、畑作物の水田での作付状況等の点検結果を踏まえ、各地域における水稻作付水田と転換作物作付水田のブロックローテーション体系の構築を推進している。水稻を組み入れない作付体系が定着している水田については、大豆の作付けを支援するなど、地域の実情に応じた取組方針を図っていく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

実需者の需要やニーズに合った「望まれる米づくり」を基本にヒノヒカリ偏重から、夏の耐候性品種や特別栽培米を含む地域の実情に即した品種構成へ転換しながら作付維持と安定生産を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米

本市においては、畜産農家を中心に自給粗飼料の確保の観点から、飼料用米の作付に対して、引き続き需要に応じた生産がなされるよう支援を行う。米粉用米については令和８年度より新たに支援を行う。

イ WCS 用稲

本市においては、畜産農家を中心に自給粗飼料の確保の観点から、作付が拡大してきた。引き続き需要に応じた生産がなされるよう、支援を行う。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆・飼料作物の生産は、近年、連作障害や低収量等により作付面積が横ばい傾向にある。そのため、今後、生産性の向上および生産体制の強化を目指し、産地としての省力・機械化体系の整備推進と品質向上のための、排水対策等の管理の確実な実施を推進する。併せて、産地交付金における二毛作助成、大豆担い手算、飼料作物助成を行い、担い手による作付を推進していく。

(4) 高収益作物

産地交付金を活用し野菜等への支援を行う。取り組みやすい露地野菜、簡易な施設整備導入を推進し、生産安定や品質向上を図ることで、複合経営による農家経営の安定を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	700.0	—	696.7	—	696.7	—
飼料用米	15.0	—	16.0	—	61.2	—
米粉用米	0.0	—	5.0	—	5.0	—
WCS用稲	118.2	—	120.1	—	170.4	—
麦	684.4	650.1	690.3	657.1	690.3	658.1
大豆	156.0	—	192.2	—	236.3	—
飼料作物	6.8	6.8	8.6	8.6	8.6	8.6
高収益作物	54.4	—	56.8	—	60.1	—
・ 野菜	50.5	—	53.0	—	55.8	—
・ 花き・花木	2.1	—	2.1	—	2.6	—
・ 果樹	1.8	—	1.7	—	1.7	—
その他	1.0	—	1.1	—	1.5	—
・ い草	1.0	—	1.1	—	1.5	—

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦	麦二毛作助成 （二毛作）	麦二毛作作付面積	（R7年度）650.1ha	（R8年度）658.1ha
			麦二毛作作付率	（R7年度）49.3%	（R8年度）49.9%
2	麦	麦わら有効活用助成 （二毛作）	麦わら有効活用面積	（R7年度）502.2ha	（R8年度）515.0ha
			実施率	（R7年度）38.0%	（R8年度）39.0%
3	飼料作物 （イタリアングラス、麦WCS 等）	飼料用作物助成 （二毛作）	飼料作物二毛作作付面積	（R7年度）6.8ha	（R8年度）8.6ha
			飼料作物二毛作作付率	（R7年度）0.5%	（R8年度）0.7%
4	大豆	大豆担い手加算 （基幹）	大豆作付面積	（R7年度）156.0ha	（R8年度）236.3ha
5	飼料用米 米粉用米	わら利用助成 （耕畜連携・基幹）	飼料用米作付面積	（R7年度）15.0ha	（R8年度）61.2ha
			米粉用米作付面積	（R7年度）0ha	（R8年度）5.0ha
			わら利用面積	（R7年度）13.4ha	（R8年度）63.0ha
			実施率	（R7年度）89.3%	（R8年度）95.2%
6	WCS用稲	資源循環助成 （耕畜連携・基幹）	WCS用稲作付面積	（R7年度）118.2ha	（R8年度）170.4ha
			堆肥散布面積	（R7年度）80.0ha	（R8年度）127.1ha
			実施率	（R7年度）67.7%	（R8年度）74.6%
7	野菜（別表に掲げる作物）	野菜作付助成 （基幹）	野菜作付面積 （施設野菜 作付面積除く）	（R7年度）5.3ha	（R8年度）6.5ha
8	い草	い草作付助成 （基幹）	い草作付面積	（R7年度）1.0ha	（R8年度）1.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:大川市水田農業推進協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦二毛作助成(二毛作)	2	4,000	麦	二毛作で麦を作付する担い手(法人、認定農業者)
2	麦わら有効活用助成(二毛作)	2	2,000	麦	二毛作麦の収穫後のわらを有効活用する担い手 (法人、認定農業者)
3	飼料作物助成(二毛作)	2	8,000	飼料作物(イタリアングラス、麦WCS等)	二毛作で飼料作物を作付
4	大豆担い手加算(基幹)	1	6,000	大豆	新品種「ちくしB5号」を作付する担い手(法人、認定農業者)
5	わら利用助成(耕畜連携・基幹)	3	8,000	飼料用米、米粉用米	飼料用米、米粉用米の稲わらを飼料として供給
6	資源循環助成(耕畜連携・基幹)	3	8,000	WCS用稲	WCS供給先畜産農家の家畜由来の堆肥を散布
7	野菜作付助成(基幹)	1	5,000	野菜(別表に掲げる作物)	販売目的で野菜を作付(ビニールハウス等での施設野菜を除く)
8	い草作付助成(基幹)	1	20,000	い草	販売目的でい草を作付

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。